

第6回(平成19年度)IODP部会・執行部会 議事録(案)

日時: 2007年11月30日(金) 14:00~18:00

場所: オフィス東京 2F 会議室C

出席者(敬称略)

執行部: 川幡穂高(東京大学) 阿波根直一(北海道大学) 荒井晃作(産業技術総合研究所)
安間了(筑波大学) 池原実(高知大学海洋コア総合研究センター)
井上麻夕里(東京大学海洋研究所) 小平秀一(海洋研究開発機構) 坂本竜彦(海洋研究開発機構)
高澤栄一(新潟大学) 日野亮太(東北大学) 松本剛(琉球大学)

戦略講演者: 田中武男(海洋研究開発機構 CDEX)

オブザーバー:

文部科学省海洋地球課 : 宿利一弥 杉山真人
海洋研究開発機構 国際課 : 花田晶公 笹山岳大
海洋研究開発機構 CDEX : 江口暢久

事務局: 中山敦志 堀内一敏 加賀谷一茶 梅津慶太 吉岡由紀

欠席者(敬称略)

執行部: 北村晃寿(静岡大学) 山崎俊嗣(産業技術総合研究所)
山田泰広(京都大学) 山本啓之(海洋研究開発機構)

議事次第

報告事項

1. 第2回 KJOD 参加報告 [高澤委員・事務局] [資料 1]
2. H19FY 会員提案型活動経費 下半期提案一覧 [事務局] [資料 2]
3. J-DESC 新会員・賛助会員獲得について [川幡部会長] [資料 3]
4. 来年度 JPGU "地球掘削科学セッション" 準備報告 [井上委員・川幡部会長] [資料 4]
5. IODP 部会/陸上掘削部会 連絡協議会開催について [川幡部会長]
6. Canterbury Basin & Wilkes Land 乗船研究者応募状況 [小平委員]

審議事項

7. 「戦略とは何か(1)」IODP の課題と J-DESC に求める役割について [CDEX 田中氏] [資料 5]
8. IODP Implementation Plan (案) への J-DESC コメントについて [川幡部会長・事務局] [資料 6]
9. IFREE による IODP 関連構造探査の進め方について [小平委員] [資料 7]
10. 高知コアセンター利用に関するアンケート調査 [池原委員] [資料 8]
11. 海外 PMO における乗船研究者ランキング方法(個人情報取扱い)について [事務局] [資料 9]

その他

- ・第16回 IODP キャンペーン 開催報告と来年度候補地について [事務局] [資料 10]
- ・会員提案型活動経費選考委員会委員選任 [事務局] [参考資料 1]
- ・次回開催日程 等

配布資料

【報告事項】	【審議事項】
資料 1 第 2 回 KJOD 参加報告 資料 2 H19FY 会員提案型活動経費 下半期募集結果 資料 3 J-DESC 会員 新規入会促進候補リスト 資料 4 JPGU 地球掘削科学セッション概要	資料 5 戦略的 IODP (統合国際深海掘削計画) の運営 [22SEPT2007] 資料 6 IODP Imprementation Plan(案) コメント集約結果・J-DESC コメント案 資料 7 IFREE による IODP 関連構造探査の進め方 アンケート(案) 資料 8 高知コアセンター利用 アンケート(案) 資料 9 海外 PMO における乗船研究者ランキング方法(個人情報取扱い) 資料 10 第 16 回 IODP 大学&科学館キャンペーン報告_in 鹿児島 参考資料 1 会員提案型活動経費選考委員会メンバー表 参考資料 2 IODP/ICDP/J-DESC 年間スケジュール表

本委員会資料の通し番号 (暫定案)

※[IS07***]が通し番号になります。(IS=i_sikkou, 07=年度, ***=番号が入ります。)

資料 1 資料 2	[IS07064_3] [IS07063_2]	第 2 回 KJOD 参加報告 H19FY 会員提案型活動経費 下半期募集結果一覧
資料 3	[IS07090]	J-DESC 会員 新規入会促進候補リスト
資料 4	[IS07091]	JPGU”地球掘削科学”セッション概要
資料 5	[IS07088_2]	戦略的 IODP (統合国際深海掘削計画) の運営 [22SEPT2007]
資料 6	[IS07092]	IODP Imprementation Plan(案) コメント集約結果・J-DESC コメント案
資料 7	[IS07065_3]	IFREE による IODP 関連構造探査の進め方アンケート(案)
資料 8	[IS07084_2]	高知コアセンター利用 アンケート(案)
資料 9	[IS07093]	海外 PMO における乗船研究者ランキング方法(個人情報取扱い)
資料 10	[IS07079_2]	第 16 回 IODP 大学&科学館キャンペーン報告_in 鹿児島
参考資料 1	[IS07018_3]	会員提案型活動経費選考委員会メンバー表
参考資料 2	[IS07089_2]	IODP/ICDP/J-DESC 年間 Schedules

議事録（案）

報告事項

1. 第2回 KJOD 参加報告〔高澤委員・事務局〕 [資料 1]
 - 資料 1 に基づき、標記の件について高澤委員から説明がなされた。
 - 11 月 21 日～23 日に韓国済州島で開催。主催は K-IODP、後援は KIGAM, MOMAF, KIMST。
 - セッションへの参加者は約 60 名、日本からは 10 名（このうち 5 名は KIODP からの招待講演者）。
 - シンポではガスハイドレートに注目が集まったが、ガスハイドレートをテーマとするのは資源関係のテーマとして扱われ、問題が発生する可能性が高い。
 - Paleoenvironment だけでは SPC で高い評価を受けられない可能性が高いため、テクニクスや Petrology を絡めてプロポーザルを書くのが良いのでは？ 沖縄トラフのテクニクスなど。
 - 来年日本で開催される国際シンポジウムとの兼ね合いなどを考慮し、次回開催を調整する（秋田での地質学会など）。
 - このシンポジウムを続けるためには目的を明確にしなければならない。

2. H19FY 会員提案型活動経費 下半期提案一覧〔事務局〕 [資料 2]
 - 標記の件について資料 2 に基づき、事務局から説明がなされた。
 - 本経費の年間予算は 150 万円。
 - 今期は 1 件の応募（2008 年 1 月開催のニューイヤースクール）があった。
 - 審査委員長は執行部山崎委員で、山崎委員長からの結果返信待ちの状況。
 - 今回のニューイヤースクールは J-DESC コアスクールの紹介などをレクチャーノートに入れ込んでおり、J-DESC や IODP の宣伝効果は高い。

3. J-DESC 新会員・賛助会員獲得について〔川幡部会長〕 [資料 3]
 - 資料 3 に基づき、標記の件について川幡部会長より説明がなされた。
 - J-DESC/IODP に関係しながら J-DESC に加入していない機関、JAMSTEC 賛助会員機関の中から掘削関連の企業をリストアップした。
 - このうちの数機関には、これから加入の打診を行うところである。
 - 引き続き会員増を図り、100 万円程度の増収を目指したい。
 - 増収分は会員への還元のために使う。学生へのコアスクール参加旅費支援学増や、コアスクールのためのポストドクアルバイト代など。

4. 来年度 JPGU ”地球掘削科学セッション”準備報告〔井上委員・川幡部会長〕 [資料 4]
 - 標記の件について資料 4 に基づき、井上委員、川幡部会長より説明がなされた。
 - 今後、2 月中旬にセッション開催日時を決定する。希望日は、JpGU 全体の懇親会の日を避けた午後に希望を出す予定。
 - 会員のシニア向け還元
 - ・ JPGU の際に J-DESC 主催懇親会を開催し、若手と年配の研究者が掘削科学について話をする場を提供する。
 - ・ その際、会員機関からの参加は無料、それ以外は 1,000 円の参加費を徴収する。
 - ・ 会員機関明記ポスターを掲載し宣伝する。
 - ・ 開催日は地球掘削科学セッションの日を希望する。

5. IODP 部会／陸上掘削部会 連絡協議会開催について〔川幡部会長〕
 - 標記の件について、川幡部会長より説明がなされた。
 - 標記会議を 12 月 20 日に開催する予定。
 - 希望者は遠方でも参加可能。会議参加には J-DESC から旅費が支給される。
 - ICDP とどのように連携していくかを検討するための会議。例えば、ドイツとの人材交流についてなどを話し合う予定である。
 - IODP/SAS の ICDP との連携については、現在以下のような取り組みが行われている。
 - ・ SSEP と SPC には ICDP からリエゾンを呼び、プレゼンをしてもらっている。
 - ・ SPC の Chair が ICDP の SAG に参加している。
 - ・ Scientific Drilling を IODP と ICDP で、共同で出版している。

6. Canterbury Basin & Wilkes Land 乗船研究者応募状況〔小平委員〕

- 標記の件について小平委員より説明がなされた。
- 両航海の応募締め切りが 11 月 30 日(本日)だが、応募者が少ない。
- USIO への提出締め切りは 2 月 25 日と 3 月 1 日である。
- Canterbury は、信州大学の保柳氏が Co-Chief となる。そのため、当初 Co-Chief であった New Jersey 航海 (onshore) は、辞退することになる。
- 2 つの系統で応募者を集めることが合意された。1. 科学推進専門部会を通して応募者を集める。2. 事務局から保柳氏にコンタクトを取り、チームとして乗船する応募者を集めてもらう。
- 科学推進専門部会で公に募集期限を延ばすか議論してもらう (どのような形で延ばすかも含めて)。

審議事項

7. 「戦略とは何か(1)」IODP の課題と J-DESC に求める役割について [CDEX 田中氏] [資料 5]
- はじめに資料 5 についての確認が川幡部会長によって行われ、引き続き標記の件について田中氏より、追加資料に基づき説明がなされた。
 - CDEX/JAMSTEC への評価の中で、IODP への我が国の研究者の積極的・主体的参画に若干の不足があること、および、国内の大学・研究機関における各分野の研究者への幅広い支援体制の構築に積極的に協力していくことは、J-DESC とも共通する課題として挙げられる。

以下、「戦略」についての議論が交わされた。

川幡: 今後の「戦略」の参考として、JAXA などが高評価を受けるのは、どのようなアピールポイントがありますか?
宿利: JAXA は「このような社会還元や経済効果がある」ということを売りにしています。

荒井: CDP のような大きなプロポーザルのほうが IO にとっては好まれるなど、今後プロポーザルを書くに当たり、どのような掘削計画が IO 側にとって良いものなのかを戦略として見出したい。

田中: 基本的にはどちらでも受け付けます。長いオペレーションの期間 (NanTroSEIZE など) に近場で短期間に掘削できるような掘削計画が入るのはありがたいという思いはあります。

安間: 本来はプロポーザルがどんどん出てくる中で、国策と合致するものをとくにサポートしていければ理想的だが、日本から提出されるプロポーザルが少ない現状では J-DESC としてはプロポーザルの育成に力を入れるのが良い。

坂本: アメリカは乗船が決まった段階から、NFS からの要請で乗船研究のプロポーザルを書いて、研究費を NSF からもらう。その上でサンプルリクエストを出すため、そのような体制が無い日本では研究者個人ではかなわない。戦略として日本から成果を出す (勝ち取る) ためには、乗船パーティーが決まった段階でチームとしてまとまって動くために、乗船の最初から最後までサポートできる体制を J-DESC として作るべき。限られた時間の中でどのように成果を出すのかを考えるべきである。

川幡: 急いでプロポーザルを書くよりは、乗船した際にサンプルを勝ち取ることを考えなければならない。あるプロポーザルが SPC に上がってハイランクになった段階で、日本人プロポーネントに (地質学会などで) シンポジウムを開いてもらい、サイエンスコミュニティーにプロポーザルの狙いなど趣旨を理解してもらい、乗船者の仮決定を行うようなシステムは必要である。これは早めに対処すべき。Equatorial Pacific と Bering Sea で実行しながら、Pre-Cruise Training の予算の有効な使い道を検討していく。

池原: コアセンターには研究のファシリティーはそろっているので事前のトレーニングを含めて活用してもらいたい。Canterbury や Wilks Land の乗船者の応募状況を考えると、どのようなクルーズがあるのかを事前に (スケジュールされる段階で) コミュニティーに周知していく必要がある。

川幡: 日本人がプロポーネントになっていない場合は、いつから内容を他の人に伝えることができるのですか?

江口: プロポーネントから許可が出ればいつでもよい。プロポーザルの Scientific Abstract は提出された段階から常にオープンである。

川幡: 例えば Watchdog をやった人がコミュニティーに知らせることは?

江口: それはルールとしてやらないほうがよい。個人ベースでのやり取りに関して言えば、アメリカでは自分のプロポーザルを Website にアップしている人もいる。USIO でも Web にアップしていたことがあるが、それはスケジューリングされた後。

荒井: 本来は、実行される航海に乗りたいと思っている人がある程度人を集めてチームを組むのがあるべき姿。戦略的にいろいろやる時間はあるにもかかわらず、そのシステムが無いのが問題。

江口: 多くの場合プロポーザルは 3 月の SPC でランキングされ、3 つのグループに分けられる。1 番目は OTF に上げられ、いつでも実行してよいグループ。2 番目は、1 番目のグループと前に OTF に上がったプロポーザルだけではシップトラックが組めない場合、1 年に限ってシップトラックに組み込むことができるグループ。3 番目は、SPC から先には行かず、次の年にもう一度ランキングされるグループ。

坂本: 3 月の SPC でランキングされるプロポーザルが出発点。

川幡：人選をどう行うかが今後の重要な課題だと思います。

高澤：予算が減っているとよく聞くが何が一番効いているのですか？

田中：予算自体は増えているものの、それ以上に運航経費（原油価格など）の上昇から、相対的に使える予算が減っている。

宿利：ちきゅうにかけるお金は実態としては増えています。

日野：南海掘削で要求されている成果は、深海掘削のみでは到達できそうになく、達成するには日本の地震学コミュニティ全体の協力が必要である。一般の地震学者たちと、掘削をやっている研究者たちはあまり関係が深くないため、その間を取り持つシステムが必要。掘削科学が地震学にフィードバックし、地震学者が掘削科学に興味をもって、参加してくれるようにしていかなければならない。

松本：乗船者の応募者を増やすと言う意味で、研究活動に連動してアウトリーチも重要であり、人を増やす方法を戦略として見直すべき。一般向けにも IODP でこれだけ新しい成果が出たというアピール・工夫も必要。

井上：多くの学会が集まる JpGU をもっとうまく活用して、IODP をアピールできる機会になればと思う。

8. IODP Implementation Plan（案）への J-DESC コメントについて [川幡部会長・事務局] [資料 6]

- 標記の件について資料 6 に基づき事務局より説明がなされた。
- IODP Implementation Plan（案）へのコメントについて、個別に依頼し意見をいただいた。
- いただいた意見のうち、共通する部分については J-DESC のコミュニティの集約意見として IODP-MI に提出する。
- 集約意見についてコメントがある場合は、12 月 1 日午後 1 時まで事務局までメールする。

9. IFREE による IODP 関連構造探査の進め方について [小平委員] [資料 7]

- 資料 7 に基づき、標記の件について小平委員より説明がなされた。
- IODP 推進のための地下構造調査に関するアンケート案を 3 種類作成した（Full Proposal 用、Pre Proposal 用、Proposal 未提出用）。
- 資料 7 の表紙「IODP 推進のための地下構造調査に関するアンケート」の文章はよりシンプルなものにする。例）J-DESC では IODP 掘削提案育成のため、プロポーザル評価・育成委員会（仮称）を設置し、国際的に高い評価を得られる掘削プロポーザルの育成に努めていく予定です。つきましては、下記要領に従い、必要地下構造調査に関するアンケートを実施したいと思います。
- アンケート用紙の Contact Person と Department の欄は日本語にする。
- Full の場合は、SSP などからのサイト・サーベイに関するコメントをつけてもらう。
- JAMSTEC の深海調査をまったく知らない人に向けては、アンケートの表紙に問い合わせ先を明記することで対応する。例）IFREE が行っている深海調査に関してなど、ご不明な点がありましたらご遠慮なくお問い合わせください。
- アンケートの取りまとめ・検討方法については芦部会長と相談の上、今後決定する。
- 修正案を、12 月 10 日をめどにメールにて承認することが合意された。

10. 高知コアセンター利用に関するアンケート調査 [池原委員] [資料 8]

- 資料 8 に基づき、標記の件について池原委員より説明がなされた。
- 実施主体はコアセンターであるため、ウェブページでの実施はコアセンターのページで行い、J-DESC ページからリンクする形式にした方がよい。
- その際には J-DESC 事務局の協力を行う。
- 郵送の場合、お金は誰が負担するかの問題が発生するため、メールベースで個々にお問い合わせの方がよい。
- アンケートの 3. IODP 乗船研究者、ならびに ICDP... 利用に関してお尋ねします。の質問項目に、After-Cruise Work について知っているかどうかの設問を追加。

11. 海外 PMO における乗船研究者ランキング方法（個人情報取扱い）について [事務局] [資料 9]

- 資料 9 に基づいて、標記の件について事務局より説明がなされた。
- ランキングする際の個人情報の取り扱い方について、USAC と ESSAC からヒヤリングを行った。
- USAC では、CV を Web に投稿・航海することには抵抗が無く、やり取りはメールの添付ファイルで行っている。CV には流出してはまずい項目（生年月日や携帯電話番号など）は記載しない？
- ESSAC では、CV はパスワードで保護されたページにアップロードされている。

- USAC と ESSAC の Subcommittee メンバーは執行部のメンバーが兼任している。
- 個人情報の件については次回、もう一度検討を行う。

その他

・第 16 回 IODP キャンペーン 開催報告と来年度候補地について〔事務局〕

[資料 10]

- 資料 10 に基づき、標記の件について事務局より説明がなされた。
- 来年度キャンペーンの候補地は水戸、つくばのほか、広島、高知に決定した。
- キャンペーンは非会員機関を毎年開催地に入れると会員獲得につながるかもしれない。

・次回開催日程 等

1 月 18 日、23 日、24 日のいずれかに開催する。